

あとがき

昨年度から刊行を開始した、年次報告集の第2号をお届けします。

おかげさまで第1号の評判は上々で、「国際マンガ研究センターというところが、どんなことをやっているのかよくわかった」という声を少なからず頂戴しました。これはうれしい反応でして、年報としての目的を一定程度果たせたということです。ただ逆に言えば、2006年度にセンターを開設して以降、私たちの活動実態が見えにくかったことを示してもいます。

本センターの主幹事業は、京都国際マンガミュージアムでの展示や講演、ワークショップ等の企画実施です。いくつかの事例はこの年報で紹介している通りで、ホームページでも記録を公開しています。ありがたいことに、ミュージアムには年間30万人近くの来館者があり、実施しているイベントの多くは盛況です。ところが、その影に隠れている（いや決して隠しているわけではありませんが）範囲にも、重要な研究テーマが並んでいるのです。

例えば、センターや研究閲覧室には、論文を書こうとする学生やマンガ愛読者の一般読者、国内外のマスコミなどからしばしば問い合わせがありますが、マンガ研究の裾野を広げるうえで、それらに回答することは大切な日常業務です。また、着実に積み上がっていくマンガの雑誌・単行本をはじめとする収蔵資料の整理は慢性的課題ですし、ここ数年はマンガ原画の散逸や売買が喫緊の課題となっているため、それをテーマとした文化庁の事業にも取り組んでいます。さらには、マンガの展覧会やそのための施設を作りたいという声が国内外から寄せられることも多く、これらに対応すべく研究員が各地に出張する機会も増えています。

もちろん、この種の業務は他の美術館や図書館でも多かれ少なかれ抱えているでしょうし、だから大変だなど言いたいわけでもありません。そうではなく、私たちに寄せられる期待や課せられたテーマをできるだけ具体的かつ鮮明に記録することが、今後ますます国内外に増えていくであろう「マンガミュージアム」や「マンガ研究拠点」の形成と連携にとって、予想以上に有意義なのだという実感を、ここで確認しておきたかったのです。

それに資するだけの年報としてはまだまだ断片的な内容かもしれませんが、その一端として、今号をお手にとりいただければ幸いです。

2019年3月1日

京都精華大学マンガ学部教授 吉村和真

京都精華大学国際マンガ研究センター 運営体制（2018年度）

センター長：竹宮恵子

研究顧問：呉智英

センター専任教授：吉村和真

研究員：伊藤遊、應矢泰紀、倉持佳代子、雑賀忠宏、ユー・スギョン

〔京都精華大学国際マンガ研究センター年次報告書（2018年度）〕

発行日：2019年3月31日

発行元：京都精華大学国際マンガ研究センター

〒604-0846 京都市中京区烏丸通御池上ル 京都国際マンガミュージアム内

TEL：075-254-7414（代）/ FAX：075-254-7424

制作：高橋藍、榊原充大

表紙デザイン：高山燦

編集：雑賀忠宏、伊藤遊

印刷：株式会社グラフィック